

学校と防災について

(有)ケイエフ企画代表取締役 木谷 道明

平成23年3月11日東日本大震災が発生致しました。それまで福島県南会津郡只見町のホテル季の郷湯らでコンサルタント業務を行っており、やっと軌道に乗りかけていた矢先のことです。その後、原発の事故が重なり会津地方も避難民の受け入れで公共の宿は平常の業務ができなくなり、コンサルタント業務を非常に残念ながら断念せざるを得なくなりました。その後4月5月と数回、宮城県・福島県・茨城県・千葉県 of 被災地に入り見るたびに自分の力のなさを痛感させられ、何か今まで手懸けてきた村おこし町おこしが虚しく、放心したような気持ちに陥りました。そこへ追い撃ちをかけるように7月の新潟・福島への集中豪雨。川は氾濫し、奥会津にも多大な被害をもたらしました。地震による津波の被害と豪雨による川の氾濫・鉄砲水の被害は、海と山に恵まれた愛すべき土地を人を根こそぎさらっていきました。自然の力の恐ろしさ、人間の無力を痛感しました。

その後、住む街、東京に、今回のこの経験を生かさねばと思うようになりました。このまま何もしないではおられないと。

昨年4月の新学期になってからお世話になっている数校の学校から「生徒の登下校の際に何かあった場合の責任は、学校にもあるのか？」と問い合わせてありました。いろいろと調べた結果、登下校は原則として学校にも責任があることがわかりました。そして生徒の登下校の防災をどのようにしたら良いかを考え、防災の専門家へ聞いたりと、学校の現状や行政の状況等を調査しました。

25年前に会社を興し「社会に貢献できる会社」を目標に仕事をさせていただいております。東日本大震災後の私なりの奉仕活動が心の中にだんだんと湧き上がってきました。そしていろいろと試行錯誤して辿り着いたのがアナログシステム of 「生徒向け災害対応マニュアル」と災害対応マップ作成です。

デジタル化が進み、携帯電話・災害一斉送信メールは震災時にはあまり役に立たなかった学校もあり、公衆電話が大変役に立ったという学校が多かった現状で、デジタルも重要ですがアナログも重要であることに気がつくきました。

「学校を中心にしたマップと、災害時にすぐに役立つマニュアル」を、生徒の鞆の中に入れてもらいたい持たせることで、防災としての意識を高めること、登下校の途中で災害を受けた時に自分自身で判断することの大切さも植え付けていただくきつかけになればと考えました。

生徒向け災害対応マニュアル・マップに関してまずは私なりの目標を立てました。

① 震災から1年後の3月11日まで、できるだけ多くの学校の生徒に持たせる。
② 利益を取らず原価(かかった経費)で制作し、奉仕をさせていただくこと。

災害対応マップにおいては、市販の地図やネットの地図は使用せず、PCの絵画ツールを使い、手書きで学校を中心に狭い範囲と少し広い範囲の地図を表裏に作成し、狭い範囲の地図には、当社のスタッフが現地を徒歩と自転車1日ばかりで、公衆電話・支援ステーション・避難場所・徒歩優先道路などを調査し、それを反映させるべく1校約1ヶ月半から2ヶ月をかけて作成しております。

震災から4ヶ月目の7月から私立学校の東京約40校・神奈川1校・埼玉1校にお伺いし、防災について、生徒向け災害対応マニュアルと災害対応マップについてお話をさせていただきました。訪問したすべての私立学校でご理解をいただき、そのうちアナログシステムでは生徒向け災害対応マニュアルと災害対応マップは8校9種類・教職員用災害対応マニュアルは2校・教職員用災害対応マニュアルは2校、デジタルシステムではWEB上での災害掲示板(伝言板)を1校と予想した以上の結果を出せました。私にご賛同ご協力くださいました学校の関係者の皆様に心から感謝しております。

また、昨年11月には生徒向け災害対応マニュアル・災害対応マップが、NHKの朝の番組「おはよう日本」に取り上げられ放映されました。

当社で震災後用意しました災害用の制作物は、

アナログシステム

- ・ 生徒向け災害対応マニュアル
- ・ 災害対応マップ
- ・ 教職員用災害対応マニュアル
- ・ A) 防災編 B) 発生時編
- ・ C) 災害後の対応編
- ・ 幹部教職員用災害対応マニュアル詳述編
- ・ 災害対策用資材・備品・備蓄チェックリスト
- ・ 生徒引き渡し票
- ・ 学校内避難経路図及び
- ・ 資材・備品・備蓄配置図 など

デジタルシステム

- ・ WEB上緊急告知システム
- ・ 緊急メール一斉配信システム
- ・ WEB上災害掲示板(伝言板) などです。

各学校で取り組んでいる防災について話を伺い、次頁で紹介しております。



▲災害対応マップ

桜丘中学校・高等学校

回答者：品田 健副校長



東日本大震災当日の状況は

当日は試験休みのため、クラブ活動の生徒のみでした。全校放送と校内の巡視で人数を確認し80名程度でそのうち学校に宿泊した生徒は男子生徒の4名のみでした。生徒を帰宅させるかどうかの判断について、学校では体系化していませんでした。交通機関がほとんど使えなかった状況でどう判断するか。また、一部可能な交通機関で帰せる生徒のみを帰すのか、きちんとした見解を出せませんでした。親が迎えに来た場合は、帰すことが当然の判断です。しかし当日は、教員が送って行くなどの緊急措置も行ったことで、帰宅が深夜になってしまったり、全員に対応出来なかったりしたことがあり、学校に居ることが一番安全ではなかったかということに気が付きました。無理をして送ることはなかったのではないかと考えています。

現在の防災に対する備えは

備蓄に関しては増やしています。実際に宿泊したのは男子4名でしたので、他の学校に聞いたりして、品数的にも補充したものがありません。投光器や発電機、ヘルメット

トがそれです。最低限の備蓄は備えたと考えています。

今後としては、食料品について見直しをするかと思っています。当時は試食なしで購入し、栄養やカロリー重視で考えていたが、生徒(子供)のことを考えると美味しいものを提供してあげたいということになりました。食事でホッとする、安心することも考えて、今後は購入を考えたいと思っております。甘いものや子供の喜ぶものも選択していきたい。

また、女生徒への配慮もし、養護教諭や他の女子高さんからのアドバイスを基に女性用の物も準備しています。

災害対応マップとマニュアルについて

幸いにして、実際にはまだ使用していませんが、使用に関する感想は申し上げられません。在校生や保護者には好評で安心したという声をいただいています。「私立に通わせた甲斐がある」との声もあります。中学・高校双方の説明会でも必ずマップやマニュアルを紹介し、避難訓練などについても説明をしており、遠距離からの生徒や保護者にとっては、非常に安心できる材料になっていると思います。

防災に関する意識の変化は

昨年まで、防災について広報で取り上げることはなかったのですが、転換期ではありました。ただ、説明会等の前に緊急の場合の避難についての説明は以前から入れており、教職員の誘導や避難口の位置などを説明していました。

神戸の震災以降に教員からの意向として、こちらでもそういった備えをした方がよいという話から始めたことです。去年までと去年以降では、反応が明らかに違うようになってきたという感じが出てきました。今まで実施していた避難訓練も、特に学校便りに掲載するようなことはありませんでしたが、今では必ず掲載するようにしています。

私立学校の防災について

学校独自で出来ることと私立中高協会

で出来ることがあると思います。単独で何かと考えると難しいところではあります。が、今までのような形式的な取り組みではなく、現実的な考えに基づき具体的な対応が必要になってきました。

避難訓練なども予告をし、決まった日に実施することが多かったのですが、先生が全員揃っていない日に実施したり、予告なしで実施したりしました。学校以外の場所への避難を実施したらどの程度か、時間や掛かるか等を組み入れ、区との連携や地域の連絡に加え、飛鳥山への避難を実施しました。想定以上の速さで避難が出来、放送から20分程で避難が完了しました。

生徒自身の意識が変わってきたことが感じられました。今回はヘルメットを着用した訓練を考えています。そのように様々な形で訓練することが意識変革にも繋がっているのではないかと思います。

中高協会への希望としては、学校間のネットワーク作りや、緊急の際の学校間の相互受け入れ等も具体的にはあまり進んでいません。その点を早急にまとめていただきたいと考えています。

南三陸への研修旅行も実施しました。教頭先生が宮城出身で、実家も津波で流された経験から5月に高3生で実施しました。

実施するまでが大変だったのですが、保護者への説明も、しっかりと納得いただくまで繰り返しました。



跡見学園中学校高等学校

回答者：清水 裕子先生

東日本大震災当日の状況は

第一に生徒の安全確認がどれくらい出来るかという点を考えました。その日は昼過ぎでしたので帰宅途中の生徒も大勢いました。その先に起こりえることも予測出来ない状況でしたので、帰宅させて良いのか悪いのか、また歩いたて、帰宅させて良いのだろうかといった判断が難しかったです。生徒を預かるからには食料の確保をどのようにするか、安全を確保したうえで生徒を統率することが出来るか、というような事を瞬時に判断しなければなりません。ですので非常に考えさせられました。そこで「保護者が迎えに来ることができない生徒は帰宅させないでとにかく預かる」という方針をたて、まずは名簿を用意して校内に残っている生徒の確認を取りました。

現在の防災に対する備えは

東京都内がパニックになった場合に復興までの時間を予測した場合、それぞれの保護者と連絡が取れるようになるまでの最長の時間を3日と考えました。そこで、全校生徒及び教職員が3日間校内に滞在することのできる準備を始めました。ただし、食料品等は賞味期限や劣化もあります。が、先のこと考えそれを維持しつつ、いつ災害があっても常に対応出来るような準備を心がけています。

災害対応マップとマニュアルについて

普段、電車通学の生徒は、あのマップを見て初めて自分がこの地域のどこにいるのか?ということが分かったと思います。東西南北の道はどこに続くのか?ということを確認出来る点や公衆電話マークが記載されている点が便利だと思います。震災当日は携帯電話が全く利用

出来ない状況が続きましたが、小銭やカードさえ所持していれば公衆電話を利用することが可能です。また、本校を中心に描かれた地図なので、これを見ればある程度の場所(例えば本校の場合は池袋から)から本校までは歩けると思います。それが分かっただけでも保護者の方々には安心されます。じぶんのケースに地図、マニュアル、笛、小銭をバックするというアイデアには良い反応をいただきます。

防災に関する意識の変化は

震災後に凄く早いスピードで前述の3日間の防災のものは買そろええましたので、それに関しては保護者の方々も安心し



て下さっていると思います。お子様たちが自分を守るという教育を受けているということに対しての好反応を保護者会でもいただいておりますので、学校としては継続的に実行していくことが大事だと思います。常に次のことを考えて動かないと難しいと考えています。

防災と広報について

また、生徒に関しても9月の訓練の際には15分足らずで全校生徒が避難できました。やはり震災時の怖さというものを一人ひとりが自覚しているのだと思います。どのような防災対策がなされているのか、どのような備蓄品が用意されているのかというのが一目で確認ができる紙媒体を考えています。中高だけではなく大学生も必要だと思っております。跡見学園文京キャンパス」としてのものになる予定です。大学側では妊婦の受入れ体制もあり、「女子校ならではの、お役にたてること」を考えていくには必ず必要になってくると思っております。現在検討に入っている段階です。

ただ、設備や備蓄品などのアピールだけではなく、生徒自らがこの学校は安全だと感じる教育と「身を守る」ということを常に生徒に仕向けたいかならないかなと思っております。例えば生徒間でリーダーを作り、上級生が下級生を誘導し避難するといったシステム作りや、生徒会の役割などを日々の教育に取り込んでいかなければなりません。日々の「生きる力」にはならないと思っております。

私立学校の防災について

皆様の学校が少しずつ同じレベルで防災に関しての危機感を持ち、一緒に物事を運ぶことが出来ればスムーズなのではないかと思っております。温度差が生じるとやはり閉鎖的になってしまいますし、例えば便利の良いツールがあった時などは、それをお互いに公表しながら地区ごとで協力できる体制を作り、私学という同じ立場の中で共有していきけるような連携の場ができてくると凄く良いかなと思います。

三輪田学園中学校・高等学校 回答者：吉田 珠美 校長



東日本大震災当日の状況は

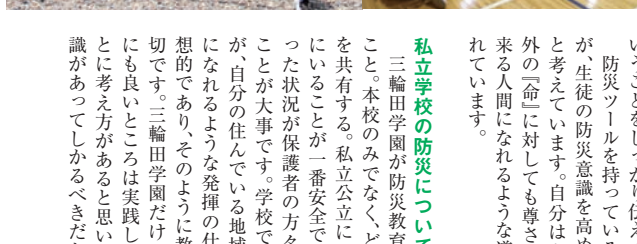
3月11日は、期末試験の終わった翌日でした。そのため、全員生徒は休みの予定でしたが、結果的には地震が発生した時点で342名の生徒が在籍していました。すぐに人数を把握出来たのは、授業がないときには登校簿を準備して、氏名表に自身で登校時間、下校時間を書き込むシステムを取っているためです。そのチェックで人数を把握することが出来ました。その後、すぐに集合と点呼により再確認を徹底することが出来、安否の確認までに要した時間は、震災の発生から20分程度でした。さらにインターネットを利用し、生徒とのコミュニケーションが確保出来ましたが、ずいぶん前から採用しておいた登校簿が、今回の安否確認に非常に役に立ちました。これが良かった点です。被災した時点では所在のバラバラだった生徒を校庭に集め



て状況を説明し、帰れないという確認をした後で、体育館に集合させてから再度生徒の状況を確認しました。これが首都直下型の地震であったならば、今回のような余裕はなかったと思います。そのために、切迫した状況への対応を検討しなければなりませんという事です。3月11日の時は保護者が何時間もお預けにお願いしていただきました。しかし学校にお預かりしている限りは安全ですから、現在はお迎えに来ていただくかなくてもけっこうです、とお伝えしています。

現在の防災に対する備えは

備蓄はその後十分備えました。特に昨年の震災時は不安がる低学年の生徒に安心感を与えるために温かい食事を用意しました。それはライフラインが生きていたので、可能でした。もし本日に震災がきたらどういいう状況になるかわからないのでさらに温かい食事等が提供できるような、全校生徒が3日間安心して過ごせるだけの備蓄を整えました。トイレについても、簡易トイレの購入はもちろん、校舎自体にもマンホールを利用したトイレ



システムがあり、プールの水を利用することで水道設備に支障がなくても大丈夫なようにしてあります。生徒のために下着なども用意しました。女子校として女性特有の配慮を加え、命を守るだけではない工夫を取り入れています。本年6月より、インターネット上に災害掲示板を作成しました。震度5弱以上の地震でホームページ上に災害掲示板のボタンが表示され、そのボタンにアクセスすることで生徒・保護者・学校の3者が情報を共有出来ます。24時間対応になっています。また、校長や防災担当の先生がチェックしますが、地震発生後30分しても動きが出ない場合は、どの先生でも対応できるシステムになっています。電話会社のシステムを使用せず、学校独自のシステムになっており、生徒・保護者の全てが個々のパスワードを持ち、容易にアクセスできる使い勝手の良いシステムです。お互いの状況を伝えることで、安心感を得ることが出来ることで最大の効果であり、震災時は、インターネットシステムが一番機能したので、これからも重点的に力を入れていこうと考えています。

防災と広報について

今年の広報の目玉と捉えています。昨年の受験時に多かつた意見として、埼玉や千葉の遠方から通学されるのが不安であるということがあり、それを払拭するためにはやはり、防災という視点が大切だと考えています。学校に在る間の安全と通学途中であってもこういった対応が出来るということを全面的に出して広報したいと考えています。塾説明会等でも三輪田の防災教育ということをしっかり伝えていきます。

私立学校の防災について

三輪田学園が防災教育の先進校になること。本校のみでなく、どの学校とも情報共有することが一番安全であること、学校に在る状況が保護者の方々にも認識されること、それが大事です。学校で学んだ防災知識が、自分の住んでいる地域で防災リーダーになれるような発揮の仕方が出来れば理想的であり、そのように教育することが大切だと思います。三輪田学園だけでなく、他の学校にも良いところは実践して欲しい。学校ごとに考え方がありますが、共通の認識があつてしまふべきだと思います。

駒込学園中学校・高等学校

回答者：池田 敬事務長

本田 靖 先生
石井 恵子さん

東日本大震災当日の状況は

当日はたまたま授業が無い日で、クラブ活動や補習に来ていた生徒達だけで、基本的には比較的対応はスムーズでした。基本的には保護者に迎えに来てもらい帰宅させるという方針をとりました。ただ、交通網が分断されてしまったので、結果100名弱の生徒は学校に泊まりました。男子と女子に分かれて講堂や会議室、保健室等を利用して一泊させたという状況です。1日の事でしたので、建物の損傷や食料の問題も含め大きな混乱はありませんでした。ただし、突然の事でしたので教員間の連携が難しいと感じました。例えば点呼を取るための生徒の名簿や備蓄品の管理等、各々が右



往左往の状態でしたので・・・。

また、以前より災害時の連絡ツールとして中学では「ウェブで駒込・1」、高校では「FairCast・2」というものを導入しており、一部で連絡の遅延はあったものの最終的には全ての保護者との確認がとれました。

現在の防災に対する備えは

東京都からの補助もあり、この先の震災時のことを踏まえて生徒が3日間泊まれる学校作りの為に、水、食料その他の備蓄品も揃えています。また、生徒の登下校時で被災した場合の対応やPTA組織の中においても防災委員会を設置するなど緊急時の体制を作っているところです。災害に関する講習会や被災者による講演、東京都の防災計画や私学の防災関連の会にも多く参加し、そこでの情報を出来るだけ現場にフィードバックするようにしています。

震災当日の教訓として、各教員からのそれぞれの情報を1拠点で収集し指示を出す役割のリーダーを作る必要があるなとつくづく思います。生徒だけではなく教員に対するレクチャーも行っていかなくてはならないですし、突然の災害時に必ずしも教員が全員揃っている訳ではないです。ある程度のグループにして対応していければと考えています。

災害対応マップとマニュアルは

生徒の登下校中、例えばこの駅で電車が停まるかということも分かりませんので、こういったツールを生徒に持たせておくことによって、事前の指導や教育が出来るのではないかと思います。突発的な



事態になった時に知識や情報が無いままでは危険ですので、このツールをひとつの資料として考え、避難場所やルートの確認、連絡方法などを学校だけではなく、日々ご家庭でもシミュレーションする学習が大切だと考えています。

防災に関する意識の変化は

生徒達に関しては震災後に行なわれまして9月1日の防災訓練時には、震災以前と比べて避難する時間もかなり早くなりました。また、消防署の方の話もこれまでに以上に真剣に聞いていましたので意識の変化が感じられます。

震災以来、特に女子生徒の保護者の方は近隣の学校に通わせたいといった傾向にあるようですが、本校の各システムや備品が充実していることに関しては安心感を持っていただけているようです。

今後の防災について

私学や学校の中だけにとどまらず、災害が起こった時にはまず自分の命を守ることが大切です。

皆が同じ状況ですので地域や通学経路で、また周りにいる人を助ける、それでも間に合わない場合には周りにも助けてもらう、といったような連携が出来れば良いと思います。そういった意味で高校生は凄く戦力になると思われます。教員の号令で集団が機能し、動くことができますので非常に有力視されていると思います。自分達が助かったら、皆で協力し合って周りを助けるといったような巧いサイクルを作っていければと思います。

* 1 N T T レゾナントが提供する「ウェブでお知らせ」。学校と家庭を安心・安全につながるための教育用ウェブコミュニケーションツール。
(<http://wdsdnet.info/>)

* 2 N T T データが提供する学校連絡網システム。従来の電話連絡網に代わり、携帯電話固定電話ファックス電子メールに向けて、メッセージを一斉伝達するシステム。
(<http://www.faircast.jp/>)

現在も引き続き防災に関して私立学校へお伺いしてお話をさせていただいておりますが、学校によってはまだ防災が進んでいない状況のところが多く見られます。進んでいる学校と差がかなりあるように見受けられ危惧しております。これからの全力で防災のご提案をさせていただきたいと思っております。

最後に、防災には完璧はありません。学校ではよりベターな準備を全力で行ってください。生徒はじめ教職員とご家族の皆様を守るために。

受験生、保護者の皆様には安心して学校選択が出来ますように心より願っております。

私たちは、貴社にピッタリのプランをご提案いたします。

有限会社 ケイエフ企画
企画コンサルティング事業部

セールスプロモーション事業部 フード事業部 フィールドリゾート事業部

本 社 / 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-25-20 TEL.03-3946-5099 FAX.03-3946-5900
www.kf-p.co.jp